

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	同朋大学
設置者名	学校法人同朋学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計		
文学部	仏教学科	夜・通信	21	6	42	69	13	
	人文学科	夜・通信			6	33	13	
社会福祉学部	社会福祉学科 社会福祉学専攻 心理学専攻	夜・通信	21	26	74	121	13	
	社会福祉学科 子ども学専攻	夜・通信			37	84	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学のウェブサイトにて公表 (https://www.doho.ac.jp/images/pdf/jitsumuka2024.pdf)
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	同朋大学
設置者名	学校法人 同朋学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 (<https://www.doho-group.ac.jp/disclosure>)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
尾関 信也 (非常勤)	弁護士	2023. 4. 1～ 2027. 3. 31	総務担当
新美 司 (非常勤)	株式会社取締役社長 執行役員	2023. 4. 1～ 2027. 3. 31	総務担当
山田 恭敬 (非常勤)	株式会社取締役	2023. 4. 1～ 2027. 3. 31	総務担当
辻 正敏 (非常勤)	株式会社代表取締役 会長	2023. 4. 1～ 2027. 3. 31	総務担当
(備考) 上記以外に真宗大谷派より5名の学外理事を置いている。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	同朋大学
設置者名	学校法人同朋学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 大学が作成した『授業計画(シラバス)作成ガイドライン』に沿って、教員が授業計画を作成する。 12月から作成開始する。学科長による記載内容妥当性確認を経て、3月末までに作成完了させ、4/1には、大学のウェブサイトにて授業計画を公表している。	
授業計画書の公表方法	大学のウェブサイトにて公表。 https://portal.doho.ac.jp/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EU&opi=mt0010
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 履修規程および卒業論文規程に基づき、各授業担当者が「成績評価方法・基準」を定め、あらかじめシラバス上で公開している。この「成績評価方法・基準」に則り、試験規程に基づき実施した試験結果等を踏まえ、厳格かつ適正に学修成果を評価している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) GPA制度を導入し、履修した各授業科目の成績を不合格科目も含めて4~0でポイント化し、平均値で表すことで学修の結果を総合的に判断する指標としている。成績評価とGPA4~0ポイントの対応は以下のとおり。 S 90~100点 : GP4 A 80~89点 : GP3 B 70~79点 : GP2 C 60~69点 : GP1 D 0~59点 : GP0 F 失格・欠席過多 : GP0 計算方法は次のとおり。一授業科目の成績評価で得たGPに、当該一授業科目の単位数を乗じる計算を、成績評価を受けた授業科目分行い、その合計を、成績評価を受けた授業科目の総単位数で除して算出する。なお、計算値は、小数点以下第3位以下を切り捨て、小数点以下第2位まで表記する。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	大学のウェブサイトにて公表。 https://www.doho.ac.jp/introduction/edu-info/2-uncategorised/1253-seisekihyouka

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>大学全体のディプロマポリシーとして以下のとおり策定している。学生がディプロマポリシーを意識できるように、その授業が大学のディプロマポリシーのどの項目と関連しているかを各授業の授業計画（シラバス）に記載している。</p> <p>1. 知識・理解</p> <p>①教養的知識 人類の文化・社会・自然についての教養的知識を修得するとともに、多文化・異文化に関する知識を修得している。</p> <p>②体系的な専門的知識 専門分野における基本的な知識を体系的に理解している。</p> <p>2. 汎用的技能</p> <p>③言語・数量的スキル 社会において活用できる技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー）を身に付け、活用することができる。</p> <p>④問題解決力 さまざまな課題状況に適用できる論理的思考力・問題解決力を身に付け、活用することができる。</p> <p>3. 態度・志向性</p> <p>⑤自己管理とチームワーク 自ら律して行動し、他者と協働して行動できる。</p> <p>⑥建学の精神を礎にした倫理観 「同朋和敬」の精神と、共に生きがいのある社会の実現のために積極的に行動できる。</p> <p>4. 総合的な学修経験と創造的思考力</p> <p>⑦総合力 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自ら立てた課題に対して創造的な解決を図ることができる。</p> <p>卒業要件および判定の手順は次のとおりである。</p> <p>各学部にて定めた単位表に基づき、124 単位以上修得した学生について、連合教授会の議を経て学長が卒業を認定する。（全学部、同様の取り扱いをしている）</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>大学のウェブサイトにて公表。 https://www.doho.ac.jp/introduction/dip-policy</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	同朋大学
設置者名	学校法人 同朋学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 (https://www.doho-group.ac.jp/disclosure)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 (https://www.doho-group.ac.jp/disclosure)
財産目録	ホームページにて公表 (https://www.doho-group.ac.jp/disclosure)
事業報告書	ホームページにて公表 (https://www.doho-group.ac.jp/disclosure)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 (https://www.doho-group.ac.jp/disclosure)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学のウェブサイトにて公表 https://www.doho.ac.jp/introduction/edu-info
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部仏教学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.doho.ac.jp/introduction/admission-policy)
(概要) 〔使命と教育理念〕 建学の理念である「同朋和敬」の精神のもと、親鸞の視座を根幹として、浄土真宗の教えに深く人間を学び、広く仏教の歴史・文化・思想を学ぶことで、現代社会を健やかに生きていく力を持つ人が成長する教育に取り組むのが本学仏教学科です。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.doho.ac.jp/introduction/dip-policy)
(概要) 仏教学科では、建学の理念である「同朋和敬」の精神に基づき、浄土真宗・仏教の思想・歴史・文化を学びます。そのなかで、一人ひとりが「共なるいのちを生きる」存在である確かな人間として自覚し、成長していける力を持つ人が育まれていきます。それらを可能にするカリキュラムを編成し、体系的、総合的に学ぶことができる教育を実践します。所定の単位を修得し、かつ以下の資質を備えた学生に対して卒業を認定し、学士（文学）の学位を授与します。 1. 知識・理解 ①日本の歴史社会の特徴でありかつ普遍的にグローバルな性格を持つ「仏教」を通して、多文化共生世界を実現する力が身についている。 ②浄土真宗・仏教に関する専門的知識を修得している。 2. 汎用的技能 ③現代社会におけるさまざまな現場で、仏教精神に基づくコミュニケーションスキル（傾聴力・話力）を発揮することができる。 ④僧侶もしくは仏教精神に基づく言動ができる者として、現代社会におけるさまざまな問題状況を把握し、適切な言動をすることができる。 3. 態度・志向性 ⑤現代において浄土真宗・仏教の精神により「同朋社会」の実現に努めることができる。 ⑥各自が身を置く共同体において「同朋和敬」の精神に基づく人間関係を形成し、協働して、さまざまな問題に向き合い続けていくことができる。 4. 総合的な学修経験と創造的思考力 ⑦浄土真宗・仏教に関する教学的専門知識を根底に持ち、それを十分に活用して、現代社会における仏教の現場で起こるさまざまな問題に覚悟を持って取り組み続けることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.doho.ac.jp/introduction/cur-policy)

<p>(概要)</p> <p>仏教学科では、建学の理念である「同朋和敬」の精神のもと、広い知識と専門の学術を身につけ、浄土真宗・仏教の思想・歴史・文化を学び、それらを活用して現代社会に貢献可能な人間の養成を目的とするカリキュラムを編成しています。</p> <p>1. 大学における専門的課題に取り組む力を身につけるため、まずは「基礎演習」や「教養共通科目」などの履修を通して、基礎力・教養力を養います。また、浄土真宗・仏教の精神を学修するため、「宗教と人間（親鸞と現代）」「宗教と人間（釈尊と現代）」を必修科目としています。</p> <p>2. 「基礎演習」や「教養科目」を学修基盤として、真宗学・仏教学に関する概論・専門科目を学び、特に講義を通して専門的な知識を身につけます。学びの道筋として真宗学分野・仏教史学分野を置き、自身の問題関心を明確にしていくための指導を行います。</p> <p>3. 3年次・4年次には真宗学・仏教史学のゼミを開き、また専門的な文献をテーマとする「講読演習」、僧侶としての実践性を磨く「教化学実習」を開講し、さらに史跡踏査、各種の現場におけるアクティブ・ラーニングを通して、仏教に関するさまざまな実践的能力を身につけます。</p> <p>4. 浄土真宗・仏教に関する体系的な学修を経て、最後には各自でテーマを設定して卒業論文に取り組み、オリジナリティーを持った課題を提示し、その論理的展開を明らかにします。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.doho.ac.jp/introduction/admission-policy)</p>
<p>(概要)</p> <p>〔期待する学生像〕</p> <p>1. 一人ひとりの「いのち」を大切にし、お互いの異なりを認め合い、敬い合うことで和し、真の平等たる人間関係（同朋）を実現していく「同朋和敬」の精神に共鳴する人。</p> <p>2. 親鸞の視座を大切に学び、仏教精神に基づき本当の意味で人間として生きることを真摯に問いたずねようとする人。</p> <p>〔高校段階での修得が望ましい教育内容〕</p> <p>1. 浄土真宗・仏教への素朴な興味を持っていること。</p> <p>2. 読む・書く・考える基礎的能力を身につけていること。</p>
<p>学部等名 文学部人文学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.doho.ac.jp/introduction/admission-policy)</p>
<p>(概要)</p> <p>〔使命と教育理念〕</p> <p>建学の理念である「同朋和敬」の精神に基づき、社会的な価値観に埋没しがちな個性の存在価値を大切にします。文学・歴史・思想・文化の各分野におけるアカデミックな教育を基盤に、人間そのもののあり方を考えるための普遍的な真理を探究するとともに、混迷する今という時代を生きるための「教養力」「思考力」を育むことが本学科の教育目的です。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.doho.ac.jp/introduction/dip-policy)</p>

(概要)

人文学科は、文学・歴史・思想・文化の各学問分野におけるアカデミックな教育を通じて人間そのもののあり方を考えるための普遍的な真理を探究し、「今」という時代に生きる自分を的確に見つめ、社会で活躍していくための力を育むことを目的としています。その目的を達成すべくカリキュラムを構成しているため、学生は、一つの専攻に所属しながらも、これらの分野を横断的に学ぶことが推奨されます。所定の単位を修得し、かつ以下のような資質を備えた学生に対して卒業を認定し、学士（文学）の学位を授与します。

1. 知識・理解

- ①多文化・異文化の共生する社会を理解し、人文学的教養として人類の営為に関する幅広い知識を身につけている。
- ②人文学の各専門分野における基本的な知識を体系的に理解している。

2. 汎用的技能

- ③文学・歴史・思想・文化等に関わる文献資料やデータを収集・読解・分析し、自分の知見を表現し、議論する能力を身につけている。
- ④取り組むべき課題を発見して考察する能力を身につけ、社会の諸問題についても対応することができる。

3. 態度・志向性

- ⑤文学・歴史・思想・文化に対する探究心を持って真摯に取り組み、立場の異なる相手とも意見交換のできる社会的対話力を身につけている。
- ⑥「同朋和敬」の精神にもとづき、さまざまな個を尊重した人間存在のあり方を考え、豊かな社会の実現のために積極的に行動できる。

4. 総合的な学修経験と創造的思考力

- ⑦人文学を通して獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自ら立てた課題に対して創造的な解決を図ることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.doho.ac.jp/introduction/cur-policy>)

(概要)

「同朋和敬」の精神を教育の根幹として、文学・歴史・思想・文化の各分野におけるアカデミックな教育を通じて人間そのもののあり方を考えるための普遍的な真理を探究し、今という時代を生きる「教養力」「思考力」を育むことを教育目的とします。

わたしたちの生きている社会は、時代的要求によって形成される表層的な現実と、その背景に普遍的に潜在している深層の真理とが関係性をもってできあがっています。同朋大学の人文学科では、表層に留まることを避けて真理の深みに踏み込み、現実と真理の接点に実在する自我の存在の価値を見いだして欲しいと願ってカリキュラムを組み立てています。

- 1. 基礎的な条件として、幅広い教養を修得するために、「教養共通科目」「外国語科目」を選択必修として設置しています。また、仏教精神を基盤とする本学の願いを時代感覚に即して理解してもらうための科目として「宗教と現代（釈尊と現代）」「宗教と現代（親鸞と現代）」も必修としています。
- 1. 高校までの「学習」に対して、大学での「主体的探究」への研究方法の変化を理解してもらい、徐々に専門性に転じていけるよう、「基礎演習（Ⅰ～Ⅳ）」を必修として設置し、段階を追って主体的な学びができるように配慮しています。
- 3. また大学での研究には、高校までのカリキュラム課程にはなかった新たな基礎的技術能力が必要になります。そのため「基礎学」を選択必修として設置し、学生の研究目的に必要な基礎技術が身につくよう配慮しています。

<p>4. 本学科のカリキュラム構成の上で意識されているのは真の「教養力」「思考力」です。「人が何を考え、どう行動してきたか」という問題の本質を追究することで、「今」という時代に生きる自分を的確に見つめ、社会で活躍していくための力を身につけます。人文学の基盤となるそのような考え方を学ぶために、「現代教養概論（ⅠⅡ）」を全専攻の必修科目として 1 学年に設置しています。</p> <p>5. 3 学年、4 学年ではゼミナール形式の「人文学演習（Ⅰ～Ⅳ）」を必修としています。学生は 1 学年、2 学年での学修を経て、3 年次からは興味ある課題を主体的に見だし、その指導を受けるに相応しい「人文学演習」を選んでアカデミックな研究段階に入ります。</p> <p>6. 4 年間の研究の成果として、卒業論文（課題）を必修としています。その作成過程では、「人文学演習」担当の教員が、小人数クラスの特徴を活かして、履修者の進捗に適応したきめ細かく丁寧な指導をします。そのため 4 年次には「卒業論文指導」科目を用意しています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.doho.ac.jp/introduction/admission-policy)</p>
<p>(概要) [期待する学生像] 「日本文学専攻」「歴史文化専攻」「現代教養専攻」共に、普遍的な真理を探究することを目的とするの言うまでもありませんが、現実社会に生きることをも意識し、両者の接点において自己発見をしてもらいたいと願い、次のような人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知的関心が高く、その充実に喜びを感じられる人。 2. 自己の内面に問いかけ、人間存在の価値を内証しようとする人。 3. 人文学を通して社会を見つめ、主体的に生きようとする人。 <p>[高校段階での修得が望ましい教育内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国語（現代文、古文・漢文）、地理歴史、公民、外国語（英語）に興味を持って積極的に学んでいること。 2. 読む・書く・考える等の基礎的能力を身につけていること。
<p>学部等名 社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.doho.ac.jp/introduction/admission-policy)</p>
<p>(概要) [使命と教育理念] 「同朋和敬」の精神を建学の理念とし、本学部は 1961（昭和 36）年に文学部社会福祉学科として創立されて以来、この理念を礎に同朋福祉を実践してきました。1984（昭和 59）年には社会福祉学部社会福祉学科となり、現在では「社会福祉専攻」「子ども学専攻」の二専攻を設けています。 社会福祉専攻では「社会福祉専門職」の養成を目指し、さらに社会貢献をも目指しています。本専攻では以下のことに意欲を持って取り組む人を求めています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.doho.ac.jp/introduction/dip-policy)</p>
<p>(概要) 社会福祉専攻では、建学の理念である「同朋和敬」の精神を理解し、社会貢献可能な人間を育てることを目指しています。それらを実現するためにカリキュラム編成がなされ、その中で体系的・総合的に学ぶことができるような教育を実践します。所定の単位を修得し、かつ以下のような資質を備えた学生に対して卒業を認定し、学士（社会福祉学）の学位を授与します。</p> <p>1. 知識・理解 ①社会福祉専門職に求められる教養が身についている。</p>

②社会福祉専門職に必要な福祉実践基礎力を修得している。

2. 汎用的技能

③社会福祉専門職に必要なコミュニケーション能力を備えていて、クライアントやその家族のみならず、他職種や関係機関とも適切にかかわることができる。

④社会生活を送るうえで何らかの生活課題に直面しているクライアントやその家族と向き合い、様々な分野の人と協働・連携することによって課題解決を図ることのできる福祉実践力を修得している。

3. 態度・志向性

⑤社会福祉実践に対する責任感と情熱をもち、実践分野にかかわらず生涯学び続け、成長しようという意欲を持っている。

⑥「同朋和敬」の精神を理解し、他人の痛みがわかり、ともに生きがいのある社会を目指していける豊かな人間性を体得している。

4. 総合的な学修経験と創造的思考力

⑦社会福祉専門職としての教養と専門知識・技術を身につけていて、それらを生活上の課題を抱えているクライアントへの支援に総合的・創造的に活用できる

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.doho.ac.jp/introduction/cur-policy>)

(概要)

社会福祉専攻では、「同朋和敬」の精神のもと、広い知識と専門の学術を身につけ、社会福祉・教育・心理・経済行政など、地域社会に貢献可能な人間を養成することを目的として、その実現のためのカリキュラムを編成しています。

自ら課題をみつけようとする姿勢や考え方、またそれら課題解決の方法や判断について体系的・総合的に学修が進められるようにカリキュラムを組み立てています。

学生の所属コースの学問的方法を学ぶために、専門教育科目・教養共通科目・自由科目を配置し、教養、自由の科目を履修することによって、専門性のみならず、応用力、洞察力等を身につけ、総合的な学びができるよう配慮しています。

初年次教育の充実のため、1年次より通年のゼミ(社会福祉基礎演習)を実施するなど4年間を通じた少人数教育によって、学生のコミュニケーションのレベルアップ、主体性の確立等を図っています。

2年次以降は「講義」「演習」によって福祉実践基礎力(ソーシャルワーカーとしての基礎力)を高め、3年次、4年次は「演習」「現場実習」を重視し、福祉実践力(課題を発見し様々な分野の人と協働・連携して実践的に取り組むことのできる力)を高めることをめざしています。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.doho.ac.jp/introduction/admission-policy>)

(概要)

[期待する学生像]

1. 「同朋和敬」の精神に立脚し、社会福祉に関する基礎的な知識・技能を学ぶことができる人。
2. その知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて探求することができる人。
3. それらの成果等を表現するために必要な思考力・判断力等の能力を身につけたいという意欲のある人。

[高校段階での修得が望ましい教育内容]

1. 高校までの基礎的な知識とともに読む・書く・考える等の基礎的能力を有している。

2. 社会福祉の支援を必要とする人々の生活に関心があり、ともに考える姿勢・意欲をもっている。
3. 社会的な諸課題や活動に関心をもち、主体的に行動するなど課題解決に向けた意欲を有している。
4. 他者とのコミュニケーションを大切に、さまざまな人とつながり協働しつつ学修する心構えを身につけている。

学部等名 社会福祉学部社会福祉学科心理学専攻

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.doho.ac.jp/introduction/admission-policy>)

(概要)

〔使命と教育理念〕

「同朋和敬」の精神を建学の理念とし、本学部は1961(昭和36)年に文学部社会福祉学科として創立されて以来、この理念を礎に同朋福祉を実践してきました。1984(昭和59)年には社会福祉学部社会福祉学科となり、現在では「社会福祉専攻」「心理学専攻」「子ども学専攻」の三専攻を設けています。

心理学専攻では「心理学の専門家」となることを目指し、さらに社会貢献をも目指しています。本専攻では以下のことに意欲を持って取り組む人を求めています

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.doho.ac.jp/introduction/dip-policy>)

(概要)

心理学専攻では、建学の理念である「同朋和敬」の精神を理解し、社会貢献可能な人を育てることを目指しています。それらを実現するためにカリキュラム編成がなされ、その中で体系的・総合的に学ぶことができるような教育を実践します。所定の単位を修得し、かつ以下のような資質を備えた学生に対して卒業を認定し、学士(社会福祉学)の学位を授与します。卒業までに身に付けるべき資質を以下に示します。

1. 知識・理解

① 教養的知識

人類の文化・社会・自然についての教養的知識を修得するとともに、多文化・異文化に関する知識を修得している。

② 体系的な専門的知識

心理学の専門分野における基本的な知識を体系的に理解している。

2. 汎用的技能

③ 言語・数量的スキル

心理分野において活用できる技能(コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー等)を身に付け、活用することができる。

④ 問題解決力

さまざまな心理的課題状況に適用できる論理的思考力・問題解決力を身に付け、活用することができる。

3. 態度・志向性

⑤ 自己管理とチームワーク

自ら律して行動し、他職種と協働して行動できる。

⑥ 建学の精神を礎にした倫理観

「同朋和敬」の精神と、共に生きがいのある社会の実現のために積極的に行動できる。

4. 総合的な学修経験と創造的思考力

⑦ 総合力

獲得した心理学の知識・技能・態度等を総合的に活用し、自ら立てた課題に対して創造的な解決を図ることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.doho.ac.jp/introduction/cur-policy>)

(概要)

心理学専攻では、「同朋和敬」の精神のもと、広い知識と専門の学術を身につけ、保健医療分野・社会福祉分野・教育分野など、心理学の専門家として地域社会に貢献可能な人間を養成することを目的として、その実現のためのカリキュラムを編成しています。自ら課題を見つけようとする姿勢や考え方、クライアントを理解しようとする姿勢、またそれら課題解決の方法や判断について体系的・総合的に学修が進められるようにカリキュラムを組み立てています。

心理学の学問的方法を学ぶために、専門教育科目・教養共通科目・自由科目を配置し、教養、自由の科目を履修することによって、専門性のみならず、応用力、洞察力等を身につけ、総合的な学びができるよう配慮しています。

【心理学専攻における4年間の学び】

教養共通科目では、人類の文化・社会・自然についての教養的知識を修得するとともに、多文化・異文化に関する知識を修得し、心理分野において活用できる技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー等）を身につけ、それらを基に4年間の総合的な学びをします。

●1年次

「建学の精神」・「社会福祉」を礎とした「心理学」の専門基礎的な学びをします。

科目例) 「生活と福祉」、「人間の尊厳と自立」、「公認心理師の職責」、「心理学概論」等

初年次教育の充実のため、1年次より通年のゼミ（心理学基礎演習）を実施するなど4年間を通じた少人数教育によって、学生のコミュニケーションのレベルアップ、主体性の確立等を図っています。

●2年次

心理学の方法論を学びます。また、「講義」「演習」によって心理職としての基礎力を高めます。

科目例) 「心理学研究法」、「心理学統計法」、「心理学実験」、「心理的アセスメント」、「心理的支援法」、「臨床心理学概論」、「発達心理学」、「知覚・認知心理学」等

●3年次

心理学の専門性を高める学びをします。具体的は演習によって体験的な学びをし、4年次に保健医療・福祉・教育の各分野で実施される心理実習のための準備をしています。

科目例) 「心理演習」、「健康・医療心理学」、「福祉心理学」、「教育相談」等

●4年次

心理学の学びの集大成として現場実習、卒業研究に取り組みます。特に「心理実習」を重視し、クライアントの内面を理解し、様々な分野の人と協働・連携して実践的に取り組むことのできる力を高めることをめざしています。

科目例) 「心理実習」「卒業論文」「論文指導」等

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.doho.ac.jp/introduction/admission-policy>)

<p>(概要)</p> <p>[期待する学生像]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「同朋和敬」の精神に立脚し、心理学に関する基礎的な知識・技能を学ぶことができる人。 2. その知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて探求することができる人。 3. それらの成果等を表現するために必要な思考力・判断力等の能力を身につけたいという意欲のある人。 <p>[高校段階での修得が望ましい教育内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校までの基礎的な知識とともに読む・書く・考える等の基礎的能力を有している。 2. 心理的支援を必要とする人々の心理状態に関心があり、ともに考える姿勢・意欲を持っている。 3. 現代社会の心理的な諸課題に関心をもち、主体的に課題解決に向けた意欲を有している。 4. 他者とのコミュニケーションを大切にし、さまざまな人のことを理解し援助できる。

<p>学部等名 社会福祉学部社会福祉学科子ども学専攻</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.doho.ac.jp/introduction/admission-policy)</p>
<p>(概要)</p> <p>[使命と教育理念]</p> <p>同朋大学は、「同朋和敬」の精神を建学の理念としています。「同朋和敬」とは、すべてのいのちは平等であるとの理解のもと、互いに敬い合って「共なるいのち」を生きていくという願いのことです。子ども学専攻は、2005（平成 17）年に幼児福祉専攻として創設されて以来、この建学の理念を礎に、子どもの福祉・教育を実践してきました。本専攻は、子どもの育ちと学びを支え、また、子どもをとりまく社会や家庭への支援を行うことのできる、質の高い「子どもの専門家」を養成し、社会に貢献することを目指しています。本専攻では、この理念に基づき、以下のような人を求めます。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.doho.ac.jp/introduction/dip-policy)</p>
<p>(概要)</p> <p>子ども学専攻では、仏教精神に基づく建学の理念である「同朋和敬」の精神のもと、特に乳児、幼児に関連する分野において社会貢献可能な人材の養成を目的としています。そのために、子どもの専門家としての知識、能力、基本的態度を身につけられるような教育を実践します。所定の単位を修得し、かつ以下のような資質を備えた学生に対して卒業を認定し、学士（社会福祉学）の学位を授与します。</p> <p>1. 知識・理解</p> <ol style="list-style-type: none"> ①子どもの専門家求められる教養が身につけている。人類の文化・社会・自然についての教養的知識や多文化に関する知識を理解している。 ②子どもの専門家に必要な専門的知識や教育・保育技術が体系的に身につけていて、今日的な課題にも対応可能である。 <p>2. 汎用的技能</p> <ol style="list-style-type: none"> ③子どもの専門家として必要なコミュニケーション能力を備えていて、子どもと子ども、子どもと保育者、子どもと地域、子どもと保護者、さらには保護者と保護者を結びつけることができる。 ④育ちゆく幼いものへの共感と温かな目を持って子どもと向き合い、一人ひとりを大切にその育ちを支えることができるとともに、問題がある場合には素早く発見し、的確な解決を図ることができる。

3. 態度・志向性

- ⑤子どものための専門職であることに対する責任感と情熱、他者と協働して行動する意識をもち、自らも生涯学び続け、成長し続けようという意欲をもっている。
- ⑥「同朋和敬」の精神と、ともに生きがいのある社会の実現に貢献し続けようとする態度を身につけている。

4. 総合的な学修経験と創造的思考力

- ⑦子どもの専門家としての教養・専門知識・技術・態度等を身につけていて、これらを自ら立てた課題の解決、一人ひとりの子どもの育ちと学びの支援に統合的に活用することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.doho.ac.jp/introduction/cur-policy>)

(概要)

子ども学専攻では、仏教精神に基づく建学の理念である「同朋和敬」の精神のもと、広い知識と専門の学術を身につけ、乳児・幼児・児童等に関連する分野において社会貢献可能な人間を養成することを目的として、その実現のためのカリキュラムを編成しています。

1. 学生の自主性を最大限に尊重し体系的・総合的に学修を進められるようにカリキュラムを組み立てています。
2. 学生の所属コースの学問的方法を学ぶために、専門教育科目・教養共通科目・自由科目を配置し、教養、自由の科目を履修することによって、専門性のみならず、応用力、洞察力等を身につけ、総合的な学びができるよう配慮しています。
3. 初年次教育の充実のため、1年次より通年のゼミ（子ども学総論、子ども学演習）を実施するなど4年間を通じた少人数教育によって、学生のコミュニケーションのレベルアップ、主体性の確立等を図っています。
4. 幼稚園教諭、保育士等の専門職養成のため、一年次から徹底した実習教育を行い、講義はもとより、現場実習を重視しています。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.doho.ac.jp/introduction/admission-policy>)

(概要)

〔期待する学生像〕

1. 「同朋和敬」の精神に立脚し、将来的に「子どもの専門家」として社会で活躍するための基礎的・専門的な知識・技能を学ぶことができる人。
2. またその知識・技能を活用して、自ら発見した課題の解決および、一人ひとりの子どもの育ちと学びの支援のために必要な思考力・判断力等の能力を身につけたいという意欲のある人。

〔高校段階での修得が望ましい教育内容〕

1. 基礎的な読む・書く・考える能力を身につけていること。
2. 現代社会、公民、政治・経済に関心をもっていること。
3. 高校生活におけるボランティア・地域活動の学びを発展させ、主体性をもち、多様な人々と協働しつつ学修する態度を身につけていること。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学のウェブサイトにて公表

(<https://www.doho.ac.jp/introduction/edu-info>)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1人	－					1人
文学部	－	8人	3人	文学部	－	8人	3人
社会福祉学部	－	14人	8人	社会福祉学部	－	14人	8人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
人				130人			130人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://gyoseki.doho.ac.jp/dhuhp/KgApp					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	80人	73人	91%	320人	340人	106%	0人	0人
社旗福祉学部	180人	209人	116%	740人	744人	100%	10人	4人
合計	260人	282人	108%	1060人	1084人	102%	10人	4人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	64人 (100%)	2人 (3.1%)	52人 (81.3%)	10人 (15.6%)
社旗福祉学部	179人 (100%)	11人 (6.2%)	148人 (82.7%)	20人 (11.1%)
合計	243人 (100%)	13人 (5.3%)	200人 (82.3%)	30人 (12.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
大学が作成した『授業計画（シラバス）作成ガイドライン』に沿って、教員が授業計画を作成する。 1 2月から作成開始する。学科長による記載内容妥当性確認を経て、3月末までに作成完了させ、4月1日には、大学のウェブサイトに授業計画を公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
履修規程および卒業論文規程に基づき、各授業担当者が「成績評価方法・基準」を定め、あらかじめシラバス上で公開している。この「成績評価方法・基準」に則り、試験規程に基づき実施した試験結果等を踏まえ、厳格かつ適正に学修成果を評価している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	仏教学科	124 単位	有・無	2023 年度以降の 入学生：46 単位 2022 年度以前の 入学生：50 単位
	人文学科	124 単位		
社会福祉学部 文学部	社会福祉学科	124 単位		
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：公表方法：大学のウェブサイトにて公表 (https://www.doho.ac.jp/introduction/edu-info)
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
文学部	仏教学科	700,000円	190,000円	361,500円 以下、別途徴収 (実習費) 10,000円 (同窓会費) 25,000円	<その他の内容> 教育充実費、同朋学会費、共育 後援会費 ※1 実習費は1年次前期徴収 ※2 同窓会費は4年次後期徴 収 休学者からは在籍料(30,000 円)と同朋学会費、共育後援会 費を徴収
	人文学科				
社会福祉 学部	社会福祉 学科	700,000円	190,000円	361,500円 以下、別途徴収 (実習費) 15,000円 (同窓会費) 25,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生の抱える教育・研究・生活上のさまざまな問題を、学生と教員との円滑な関係性によつて解決していくことを目的として、全学生にアカデミック・アドバイザー教員を設定している。また、相談できる時間として、オフィスアワーを教員ごとに週2回設定している。障害学生への支援として、学習における各種の直接的な支援とともに、全学における学習の基礎的な環境整備として、合理的配慮に取り組んでいる。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア支援センターでは、キャリア関連科目の担当教員と連携し、1、2年次生では、アセスメントツールを利用し、自己理解・職業観の醸成に取り組んでいる。3年次生からはキャリア支援センター職員が学生全員に個別面談を実施し、各々の学生の希望進路を把握できるように努めている。個別指導を主としつつ年間十数回の就職支援講座を設け、具体的な就職支援も行っている。また、学内企業展や学内企業説明会を開催し、直接企業の採用担当者と接する機会を設けることにより、業界・業種研究の場としている。他にも、週1回、外部からキャリアカウンセラーを招き、全学生を対象に進路相談や就職相談に対応している。4年次生対象にはハローワークのジョブサポーターによる就職相談会を開き、就職相談からより具体的な面接指導まで受けられるようにする等、低学年からキャリア支援センターを利用しやすい環境をつくっている。このように、キャリア支援センターでは個々の学生がより希望に近い進路に進めるよう支援し、満足して卒業できるよう取り組んでいる。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 心の健康に関する支援施設として学生相談室、身体の健康に関する支援施設として健康管理室が設置されている。 学生相談室はカウンセラー非常勤3名(曜日担当制)を置き、在学生及び学生に関する教職員・保護者からのカウンセリングを実施、必要に応じて学外支援機関との連携等を行う。健康管理室では、看護師を常時1名置き、学校保健法に基づく定期健康診断の実施、それに伴う保健指導の展開及び、日々の体調不良における学生対応等を実施している。また、校医による健康相談も隔月に一度行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学のウェブサイトにて公表 https://www.doho.ac.jp/introduction/edu-info
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F123310106602
学校名 (〇〇大学 等)	同朋大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 同朋学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		115人	114人	122人
内訳	第Ⅰ区分	72人	66人	
	第Ⅱ区分	22人	30人	
	第Ⅲ区分	21人	18人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				－
合計 (年間)				123人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	—	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当	—	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	—	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	—	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。